

## NEWS

## 世界の異常天候とその影響評価 (12)

(Climate Impact Assessment, October 1984)

(                    //                    , November 1984)

(                    //                    , December 1984)

〔昭和59年10月〕

## 1. 合衆国南部中央一大雨、洪水、トルネード、雹

テキサス、ルイジアナ、カンサスの各州では大雨、洪水、トルネード、雹などのために農作物や資産の被害が生じた。この3州の被害額は、予備的な見積りで1億9千万ドルに達した。テキサス州のオースチンでは10月21日の1回の雷雨だけで1,500万ドルの被害が生じた。ゆっくりとしか移動しない雷雨のために記録破りの大雨となった地域もあった。テキサス州南部の都市（ロブスタウン）では10月18日から19日にかけての24時間以内に500mmもの雨量を記録した。また、アーカンサス州のリトルロックでは、10月18日に100mmの雨が降り、10月の新記録となった。

## 2. サハラ砂漠南方の地域—干ばつ

エチオピアでは、干ばつのために厳しい食料不足が生じ、結果的に何万人もの死者を出すことになった。飢餓の原因は、前年からの食料のストックがなかったことと、季節初期の農作物が干ばつの被害を受けたことである。食料不足の影響を最も強く受けたのは北部のウォロ州とチグレー州のようである。北部ではこの夏の少雨のために主要農作物が被害を受けた。この農作物は現在収穫期にあたっている。西部や北部の高地では降水量は平年並みかそれ以上であり、エチオピアの主要農業地域の大部分では作物の成長にとって好ましい状況となっている。

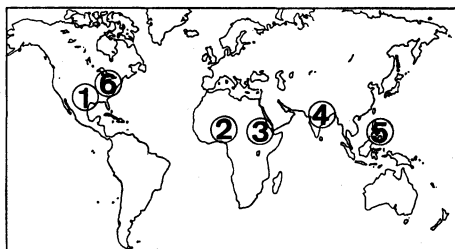
西アフリカや中央アフリカのサヘル地域では、7、8月の高温乾燥のため農作物生産は減少した。季節の後半に雨が降ったため、牧草や水供給や植えつけの遅かった農作物には良い影響があった。

〔昭和59年11月〕

## 3. エチオピア—干ばつ

エチオピア北部、西部、南部では11月中に各地で俄か雨が降ったが、農業、畜産、水供給にはほとんどよい影

1985年2月



響はみられなかった。むしろ、この雨のため、満足な屋根もない食糧配給所では難民の死者が多くなった。

西部では今年の収穫が平年以下であれば厳しい食糧不足が発生するおそれがあり、サヘル地方の諸国では1985年の収穫期までは水不足が続く見込みである。

東アフリカと南アフリカでは、大雨のために洪水が発生した地域もあったが、全体としては収穫予想は好転した。

## 4. インド—熱低

インド南東部では11月12日から15日にかけて、熱低による大雨と強風のため430人が死亡し78,000人が家を棄てて避難した。この暴風雨のもたらした降水量は500mmに達した。

## 5. フィリピン—台風

11月5日に台風 Agnes (台風24号) がフィリピンの群島部を襲い、少なくとも515人が死亡し、445,000人が家を棄てて避難した。この台風は最大風速が250 km/h (約70 m/s) 程度であり、今季で二番目に強い台風であった。

台風 Ike (台風11号) と台風 Agnes (台風11号) による死者は、合計すると2,000人以上となる。

〔昭和59年12月〕

## 6. 合衆国東部—暖冬

合衆国東部では、今世紀で最も暖かい12月の一つとな

り、暖房用のエネルギーコストは13億ドルも削減された。人口の重みをつけたディグリーデイの全国合計は、12月としては1931年以来の最低値となった。オハイオーミシシッピーより東の地域では、月平均気温が5~9°Cも平年より高かった。14の州では、少なくとも最近50年間で最も暖かい12月となった。毎日の気温については何

百もの新記録が生まれた。多くの人々は春のような天気を楽しんだが、東部のスキー場では、クリスマスから新年までの最も賑わうはずの時期に営業ができなくなった。

(注：上記各項目の番号は図中の番号に対応している。)

(気候変動対策室 真野裕三)

## 第23期第4回常任理事会議事録

日 時 昭和59年12月18日(火) 14:00~17:00

場 所 気象庁観測部会議室

出席者 山元、松本、田宮、土屋、花房、松野、浅井、  
山岸、能登、河村、春日

### 議 事

#### 1. 昭和60年度予算について

- (1) 天気と集誌については増額希望がでている。
- (2) 各委員会は 次回の常任理事会の4、5日前までに事務局あて予算増額要事項があれば資料を提出する。

#### 2. 国際学術交流について

- (1) 委員会の名称は国際学術交流に統一する。
- (2) 国際学術交流基金の作り方、基金の使用法等については1月の常任理事会に原案を提出して審議し、次のステップに進みたい。
- (3) 来秋の中国代表団の訪日に関し、理事長名で中国気象学会の会長および事務局長あてに大阪の秋季大会の日程を書簡で知らせた。中国側の希望が来次第日程の細部をつめることにする。

#### 3. IAMAP 総会の誘致について

(1) 山元理事長から1989年の上記のことについて学術会議拡大気象分科会で12月5日議論した内容について、資料にもとづきおおよそ次のように説明があった。

ア. 分科会では、総会を誘致する方向で意見が一致した。

イ. 規模、場所、時期等についても討議したが、誘致することにすれば、学会の一致協力が必須であり、気象庁の支援が不可欠である。場所としては東京またはその近辺が望ましい。学会としての態度を近いうちに決定する必要がある。

(2) これに関して会計、事務局体制等について議論したが、細部について国際学術交流委員会で検討し、1月の常任理事会にはかることにする。

#### 4. その他

第10回レーザ・レーダーシンポジウムの気象学会協賛について、協賛費が必要な場合は次回の常任理事会で検討する。